

## 全入院患者部門の薬剤耐性菌感染症患者の報告対象について (Ver.2.1)

状態		新規・継続の判定			判定
		前月	当月	翌月	
Case 1	薬剤耐性菌を保菌	●	—————		報告しない
Case 2	前月中に薬剤耐性菌感染症が治癒し、当月に入り保菌が持続	●	○ —————		報告しない
Case 3	薬剤耐性菌感染症を当月発症		● —————		「新規」
Case 4	入院時すでに薬剤耐性菌感染症を発症(持ち込み)		● ————— 前医で実施 入院		「新規」 (前医での検査日を入院日に登録)
Case 5	前月に薬剤耐性菌感染症を発症し、当月に再度行った細菌検査でも <b>同一</b> の感染症と判定	●	● —————		「継続」
Case 6	前月に薬剤耐性菌感染症を発症し、当月は細菌検査を実施していないが継続して治療中	●	—————		報告しない
Case 7	薬剤耐性菌以外の感染症の経過中、薬剤耐性菌感染症を発症		● —————		薬剤耐性菌検査日より「新規」
Case 8	<b>前月に</b> 薬剤耐性菌感染症を発症し、一度治癒したが <b>当月新たに同一</b> の薬剤耐性菌による感染症を発症	●	○ ————— ●		「新規」
Case 9	<b>当月に</b> 薬剤耐性菌感染症を発症し、一旦治癒したが <b>同月新たに同一</b> の薬剤耐性菌による感染症を発症		● ————— ○ ●		「新規」1名分
Case 10	薬剤耐性菌感染症を発症し治癒退院。その後、 <b>同一</b> の薬剤耐性菌による感染症を発症したため同月再入院		● ————— ○ ●	●	「新規」2名分
Case 11	<b>同一</b> の薬剤耐性菌による複数の部位の感染症を発症		● ————— ● 例: PRSPによる肺炎 例: PRSPによる中耳炎		患者予後により影響のある感染症を「新規」1名分 [例] PRSPによる肺炎を1名分報告し、PRSPによる中耳炎は報告しない]
Case 12	複数の薬剤耐性菌による <b>同一</b> (または複数)の部位の感染症を発症		● ————— ● 例: PRSPによる肺炎 例: MRSAによる肺炎(または中耳炎)		それぞれの薬剤耐性菌感染症を「新規」1名分ずつ [例] PRSPによる肺炎とMRSAによる肺炎(または中耳炎)を合計2名分]
Case 13	<b>前月に同一</b> の薬剤耐性菌による複数の部位の感染症を発症。一方は治癒したがもう一方は継続治療中。	●	● ————— ● 例: MRSAによる菌血症 例: MRSAによる褥瘡		「継続」

※ 薬剤耐性菌感染症により同一の検体から同一の薬剤耐性菌を複数回検出した場合は、1回目のみ報告

※ 薬剤耐性菌感染症により同一の検体から複数の薬剤耐性菌が検出された場合は、起因性のある耐性菌のみ報告

ただし、複数の薬剤耐性菌が感染症の起因菌であると医師が判断した場合は、それぞれの薬剤耐性菌感染症を「新規」1名ずつ報告

[例] 2菌種による菌血症でいずれも起因菌と判断する場合は合計2名分]

